

なにやってんだよ!

ネットワーク管理者・池田の

第3回 URLには必ずスラッシュを!

今回は、インターネットの代名詞となってしまったWWWに關してのマナーを説明したい。重箱の隅をつつくような細かいことかもしれないが、皆で使っているインターネットである。ささいなことでトラフィックを増やさないように気を遣うべきだ。

スラッシュを付けるか付けないか

日夜ネットサーフィンに励み、アマタ(頭ではない)のホームページを訪問しておられる読者諸兄のことだ。URLについて以下のような2つの記述を見たことがあるだろう。

```
http://www.impress.co.jp
```

```
http://www.impress.co.jp/
```

この2つの違いは、表面的には最後に「/(スラッシュ)」があるかどうかだ。どちらのリンクでも、クリックすれば目的のページへ行けるので、それほど気にしていない方も多いと思う。しかし、実はネットワークのトラフィックに関わる重要な問題が含まれている。

自分のホームページのURL①を告知したり、他人のリンクを設定する際に、スラッシュを付けるのと付けないのと、いったいどちらがより望ましいのだろうか?

余分なトラフィックが発生する

「スラッシュを付けるか付けないか」という問題については「RFC1738②」に記述があり、最後のスラッシュはつけても良いし、省略しても良いことになっている。だとすると、より短いスラッシュをつけないほうが入力するときに楽だし、字数が少ないのでトラフィックが減って望ましいのかというと、実はそうではない。

ネットスケープ・ナビゲーターなどで「http://www.impress.co.jp」と入力すると、ページが全部表示された時にはいつの間にか「http://www.impress.co.jp/」と表示される。

この現象はブラウザが独自に解析して付けているのではなく、アクセスされる側のWWWサーバーにアクセスする側がリクエストを出した結果、正しいURLを教えてもらっているのだ。スラッシュ付きで表示されるのだ。

WWWサーバーを設定、管理している立場から言わせてもらえば、「スラッシュを必ず付けるべきだ」と言いたい。前述したように、正しい

脚注 ① URL:「Uniform Resource Locator」の略。インターネットでアクセスする先のサーバーのアドレスを記述する形式。「co」は会社、「jp」は日本を意味をするなど、階層構造になっている。

② RFC1738:RFCとは「Request for Comments」の略で、その1738番目の書類のこと。今日のインターネット上で使われているプロトコルの事実上の規格書。

③ トランザクション:ひとつ要求に対してひとつの答え(データ)が返ってくる。この形態の処理方法をトランザクションと呼ぶ。

いURLを教えてもらうためのトランザクション③が発生し、結果として無用なトラフィックを増やしているのだ。

自分のホームページにリンクを貼るときにも注意!

WWWブラウザにURLを入力するときには、必ずスラッシュをつけるべきだということはお分かりいただけただろうか。これはURL情報を掲載する新聞、雑誌の記事や広告にも言いたいことである。

自分のホームページを告知するときや、リンクを張る場合にも同様である。また、他のサイトへのリンクに限らず、自分のホームページ内でのリンクにもいえる。

例えば

(悪い例) http://www.impress.co.jp/teletext

(良い例) http://www.impress.co.jp/teletext/

がそうで、HTMLでの違いは以下のとおりだ。

(悪い例)

(良い例)

これから自分のホームページを公開したり、スラッシュなしで公開されている他人のページのリンクを貼ったりするときには、ぜひともスラッシュをつけて、無用なトラフィックの増大を防ぐべきだ。ただし、「http://www.impress.co.jp/index.html」のように、最後が「.html」「.htm」「.gif」「.jpg」などになっていて、直接ファイルを指し示しているURLの場合、スラッシュを付けないように。やってみればすぐに分かるが、エラーとなり、リンクにならない。スラッシュを付ける必要があるのは、ディレクトリーを指し示す場合だ。

自分の記述ミスでページ作成者や管理者の手をわずらわせないよう、十分注意して記述し、先月号で説明したとおり、チェックは十二分にしていきたい。

たあっ!
必ずスラッシュを
付けよう!





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp